大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和6年度	学校コード	F140210110625	設置等組織名	国際文理学部（環境理学科（仮称）、社会情報工学科（仮称））
大学名	福岡女子大学	設置区分	公立	事業計画名	福岡女子大学国際文理学部環境理学科（仮称）・社会情報工学科（仮称）設置計画
学校種	大学	都道府県	福岡		

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。

当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ 1	環境理学科と社会情報工学科の新設に向けて、以下の取り組みを行う。 1-① 各学科におけるディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを確定（採択後～2025年3月） 1-② 高校訪問等による広報活動とともにSSHの指定高等学校との連携協定を結ぶ（採択後～2026年3月） 1-③ 小中高生向け理系人材育成プログラムの調整・準備及び実施（採択後～2026年3月） 1-④ 各学科におけるカリキュラムの編成・確定（2025年1月～2026年3月） ・カリキュラム編成に伴う履修規程等の諸規程の整備 ・カリキュラム編成に伴う採用人事の計画 1-⑤ 企業や自治体、他大学との連携に関する調整及び準備（2025年4月～2026年3月） 1-⑥ 入試制度の検討（2025年4月～2025年10月） ・アドミッション・ポリシーに基づく各種入試制度及び編入学試験実施の検討	1-① 各学科におけるディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシーを確定（2025年2月） 1-② 高校訪問等による広報活動とともにSSHの指定高等学校との連携協定を結ぶ（2024年11月、2025年3月） 1-③ 小中高生向け理系人材育成プログラムの調整・準備及び実施（2024年6月～8月） 1-④ 各学科におけるカリキュラムの編成・確定 ・カリキュラム編成に伴う採用人事の計画（2025年2月） 1-⑤ 大学・高専成長分野転換支援基金助成金計画変更承認申請書の提出（2025年3月31日承認） 【改組内容】 2024年 国際文理学部社会情報工学科について、名称を生活情報工学科に変更して検討中。 2024年 国際文理学部環境理学科について、名称を環境理学科、学位分野を理学関係から工学関係に変更して検討中。	R6年度自己評価	【3】計画を十分に実施している。
				○年度自己評価
フェーズ 2 前倒し			○年度自己評価	リストから選択してください。
認可申請又は届出	2026年12月 国際文理学部環境理学科・社会情報工学科の設置届出予定、収容定員変更の届出予定、学則変更の届出予定			
フェーズ 1 後倒し	1-② 高校訪問等による広報活動（2025年から継続） 1-③ 小中高生向け理系人材育成プログラムの実施（2025年から継続） 1-⑦ 新学科のホームページの作成及び開設（2026年4月～6月） 1-⑧ キックオフシンポジウムの開催（2026年10月頃） 1-⑨ 入学者選抜の実施（2026年12月～2027年3月） ・学校推薦型選抜 / 一般選抜 / 総合型選抜（AO入試） / 外国人留学生選抜 / 帰国生・社会人特別選抜 1-⑩ 新学科の内部質保証体制の検討及び整備（2026年10月～2027年3月） 1-⑪ 新設科目担当教員の公募（2026年1月～2027年3月） 1-⑫ 新学科設置に伴う学則変更（2026年4月～2026年9月）		○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ 2	環境理学科と社会情報工学科の新設に向けて、以下の取り組みを行う。 2-① 新学科の設備・備品の整備（2026年4月～2027年3月）		○年度自己評価	リストから選択してください。
開設又は定員増	2027年4月 国際文理学部環境理学科開設予定（入学定員30人、理学関係）、国際文理学部社会情報工学科開設予定（入学定員40人、工学関係）			
フェーズ 2 後倒し	環境理学科と社会情報工学科の新設に伴い、以下の取り組みを行う。 2-① 新学科の設備・備品の整備（2026年から継続）		○年度自己評価	リストから選択してください。
フェーズ 3	環境理学科と社会情報工学科の新設に伴い、以下の取り組みを行う。 3-① 2学科の開設（2027年4月） ・新規科目を担当する教員の採用 3-② 高校訪問等による広報活動（2027年4月～2031年3月） 3-③ 新学科の内部質保証の実施（2027年4月～2031年3月） 3-④ 小中高生向け理系人材育成プログラムの実施（2027年6月～2031年3月） 3-⑤ 企業や自治体、他大学との連携による授業を含む各種プログラムの実施（2027年4月～2031年3月） 3-⑥ 編入学試験の実施（2028年10月頃） 3-⑦ 新学科のホームページの更新（2027年4月～2031年3月）		○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
			○年度自己評価	リストから選択してください。
定員減又は学部等の廃止	2026年12月 国際文理学部環境理科学科募集停止に係る報告予定（入学定員70名、理学分野） 2027年度 国際文理学部環境理科学科学生募集停止の予定（同上）			

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	福岡女子大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

- i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--
- ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--
- iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--
- iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--
- v) 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度 の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。 <table border="1"> <tr> <td>確認を受けている</td> <td>☒ チェック</td> </tr> <tr> <td>確認の対象に該当しない</td> <td>☐ チェック</td> </tr> </table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。 <table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td>☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。） <table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td>☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。 <table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td>☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。 <table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td>☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。 <table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td>☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。 <table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td>☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。 <table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td>☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。 <table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td>☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。） <table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td> <td>☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。 <table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td>☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時まで、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せた水準以上とする計画であること。 <table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td>☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。 <table border="1"> <tr> <td>計画通りに進んでいる</td> <td>☒ チェック</td> </tr> </table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑬	選定された大学は、公券要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文部科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。 <table border="1"> <tr> <td>計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した</td> <td>☒ チェック</td> </tr> </table>	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック			
計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック					
⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。 <table border="1"> <tr> <td>認定を受けておらず申請する意向もない</td> <td>☒ チェック</td> </tr> </table>	認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック			
認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	福岡女子大学
-------------	-------	-----	--------

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。

計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- チェック a. 企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- チェック b. 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- チェック c. 関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>【a. 企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施】</p> <p><2学科共通></p> <p>・企業との連携教育プログラムの構築（既存の取組）： 学外講師として授業を担当、企業での就業体験、共同研究を通じた研究力向上、PBL</p> <p>・福岡商工会議所及び九州経済連合会との連携（計画）： 専門科目の実践演習ならびにインターシップの実施</p> <p><社会情報工学科></p> <p>・現場のIT関連エンジニアを招いてのゲスト講義の実施（既存の取組）</p> <p>・企業から提供された実データに基づきデータ分析によるPBLの実施（既存の取組）</p> <p>【b. 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施】</p> <p><環境理学科></p> <p>・九州産業大学との連携授業（既存の取組）： 福岡を中心とした九州の環境に関するテーマ</p> <p>・福岡県の複数の大学との連携授業（計画）： 福岡県が推進するフンヘルスに関するテーマ</p> <p>【c. 関連分野に強みを持つ海外大学との連携】</p> <p><環境理学科></p> <p>・DAVISプログラム（カリフォルニア大学デビス校での体験学習）の拡充（既存の取組）</p>	<p>【a. 企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施】</p> <p><2学科共通></p> <p>・トータルケア・システム株式会社と連携し、使用済紙おむつサイクルの新規プロセスに関する研究を推進した（2024年度の卒業研究）。</p> <p>・今後の連携に向けて学内での検討を行った。</p> <p><社会情報工学科></p> <p>・「情報科学特別講義」において、NOBDATA株式会社をはじめとする情報通信企業のエンジニアや起業家（10名）をゲスト講師として招聘し、AI・データサイエンスや各種情報技術の先端事例についてのルー講義を実施した。</p> <p>・日本テクノ株式会社と幼児施設におけるスマートクローンを活用した省エネ教育プログラムの開発および評価を実施中（2024年度～継続の卒業研究）。/株式会社ほけもんおよび防府市青少年科学館との連携に基づく資源回収行動を促す仕掛けの効果検証（2024年度～継続の卒業研究）。/セイハネットワーク・ロボ団との連携に基づくプログラミングロボットを活用した環境教育プログラムの開発および評価を実施中（2024年度～継続の卒業研究）。/チャリチャリ株式会社からシェアサイクルの利用実態に関する実データの提供を受け、シェアサイクルの普及要因の分析をテーマとする卒業研究を実施した（2024年度）。/FOLK株式会社から提供を受けた医療用ユニフォームのデザイン画を基に色の展開を行い、着用者である看護師の視点から求められる色について調査・分析を行った（2024年度の卒業研究）。/岡山市より新庁舎における各フロアの図面データ、旧庁舎の来庁データの提供を受け、スマート窓口の実現に向けた窓口配置の提案についての卒業研究を実施した（2024年度）。</p> <p>【b. 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施】</p> <p><環境理学科></p> <p>・「生活者の視点から、九州・福岡のさまざまな環境問題を考える」をテーマに2024年8月に実施。60名の学生（福岡女子大学30名・九州産業大学30名）が参加。</p> <p>・2024年10月にフンヘルスに関する講演会を実施（講演者：ハワイ大学ジェロツサ・チン・チョー氏。2025年に福岡県内9大学との連携授業を実施するための検討を行った）。</p> <p>【c. 関連分野に強みを持つ海外大学との連携】</p> <p><環境理学科></p> <p>・2024年9月にカリフォルニア州立大学デビス校においてプログラムを実施した。サステナビリティに関する授業や食環境・廃棄物・自然保護・交通・エコタウン等の先進事例の視察を行った。また、同年10月、12月には学内での報告会を行い学習成果の発表を行った。これらの成果をもとに今後のプログラムの拡充について検討を行った。</p>	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- チェック a. 入学者選抜における科目の見直し
- チェック b. 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- チェック c. 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- チェック d. 社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
- チェック e. 留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>【b. 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組】<2学科共通></p> <p>・高校訪問や説明会等による広報活動を積極的に行う。</p> <p>・高校や高等専門学校等との協定を拡充する。</p> <p>【c. 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）】<2学科共通></p> <p>・小中高生向け理系人材育成プログラムとして、小学校の女子児童向けに実験教室等々、中学校の女子生徒向けにサマースクール、研究室体験プログラム等を実施する。</p> <p>【d. 社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）】<2学科共通></p> <p>・本学が実施している社会人を対象としたリカレントプログラムである「イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム」及び公開講座において、GXやDXに関連する講義を提供する。</p> <p>【e. 留学生の受入れ強化に向けた取組】<2学科共通></p> <p>・現在実施している海外との協定校入試（ベトナム、タイ、マレーシアの交流協定校からの特別選抜）の受験生募集において新設2学科の広報活動を積極的に行う。</p> <p>・国内外の日本語学校への訪問、留学フェア等での広報活動、海外の高校生を招聘する教育プログラムを実施する。</p>	<p>【b. 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組】<2学科共通></p> <p>・2025年3月に実施した「春のキャンパス見学＆相談会」にて、PR用のチラシを配布し、新学科に関する全体説明及び個別相談を行った。また、高等学校を訪問し、新学科のPRを行った。</p> <p>・2024年11月に福岡県立城南高等学校と連携協定を締結した。</p> <p>【c. 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）】<2学科共通></p> <p>・小中高生向け理系人材育成プログラムとして、2024年6月に福岡市立青葉中学校生徒を対象とした体験授業、福岡県立香住丘高校生徒を対象とした「環境科学研究講座」、2024年7月に近隣の小学校高学年の児童を対象とした「ひらめき☆ときめきサイエンス」（講座名「ナメクジは賢い！～ナメクジの学習行動と脳のしくみ～」）、2024年8月に香住丘高校生徒を対象とした研究室体験プログラムをそれぞれ実施した。2024年7月と12月に香住丘高校生徒を対象とした「数理解コミュニケーションコース生徒課題発表会」を実施した。</p> <p>【d. 社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）】<2学科共通></p> <p>・2025年度以降に実施する「イノベーション創出力を持った女性リーダー育成プログラム」での講義を検討していたが、当該プログラムが2024年度で終了することとなった。公開講座での講演については次年度の講座に向けて検討を行った。</p> <p>【e. 留学生の受入れ強化に向けた取組】<2学科共通></p> <p>・2024年12月にベトナムの交流協定校であるベトナム国家大学ハノイ校付属外国語専門高等学校において生徒を対象とした説明会を実施した（20名参加）。また、マレーシアの交流協定校である帝京マレーシア日本語学院の教員に対し新学科の周知を行った。2025年3月にベトナム、タイの交流協定校（ベトナム国家大学ハノイ校付属外国語専門高等学校、トリアムウドムスクサ高校）の生徒、教員を大学に招聘する交流プログラム（アジア高校生招聘事業）を実施し、新学科の概要を説明した（18名参加）。</p> <p>・国内、国外（韓国、ベトナム、タイ）で行われた留学フェア、日本語教育機関での説明会において、新学科の周知を行った。また、2025年3月にベトナム、タイの交流協定校（ベトナム国家大学ハノイ校付属外国語専門高等学校、トリアムウドムスクサ高校）の生徒、教員を大学に招聘する交流プログラム（アジア高校生招聘事業）を実施し、新学科の概要を説明した（18名参加）。</p>	<p>【d. 社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）】<2学科共通></p> <p>・社会人学生の受入れ強化に向けた取組について、当初予定していたプログラムが2024年度で終了したため、2025年以降の取り組みをあらためて検討する必要がある。</p>

大学名	福岡女子大学
-----	--------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	
大区分	小区分	項目	単位																				
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	240	240																		
		入学者数	人	249	246																		
	その他の学期	入学定員	人	0	0																		
		入学者数	人	0																			
	入学者合計	入学定員(A)	人	240	240																		
		入学者数(B)	人	249	246																		
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.04	1.03																		
	収容定員等	収容定員(C)	人	960	960																		
		編入学定員	人	***	***																		
		在籍者数(D)	人	1025	1037																		
		編入学者数	人	***	***																		
			収容定員充足率 (D/C)	倍	1.07	1.08																	

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度
改組状況			選定-6年	選定-5年	選定-4年	選定-3年	選定-2年	選定													
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		60,659	55,611	55,731	46,310	42,766	43,471													

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 (過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均) (E)	千円	52,551
本事業による助成金の額(F)	千円	293,650
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	59,892

特記事項

大学（学士課程）の令和6年度のその他の学期の入学定員「0人」は、国際文理学部国際教養学科の交流協定校推薦型選抜による若干名の受け入れを意味している。